

図 3.1 視覚によって修飾される痛み\*

「赤色」に光るオブジェクトをみている時には、手に与えられる痛み（熱刺激）が強く感じる。  
(Moseley, G. L. and A. Arntz, The context of a noxious stimulus affects the pain it evokes. Pain, 2007. 133 (13): p. 64(71).)

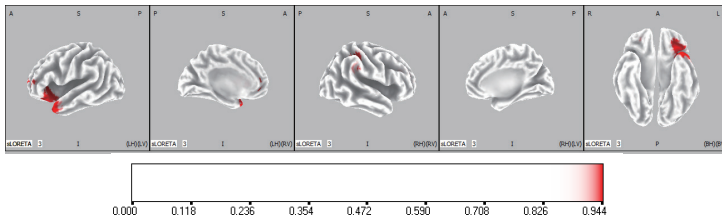


図 3.4 「自分の手が大きくなった」錯覚をしているときの脳活動\*

多感覚統合に関わる頭頂連合野だけではなく、痛み関連脳領域として知られている前部帯状回・島皮質のアルファ波の周波数が減衰していた。

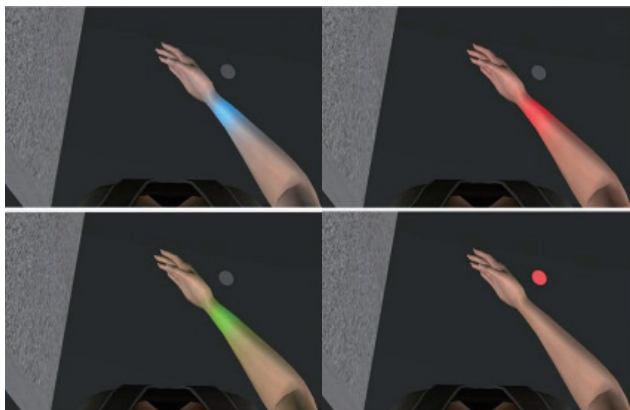


図 3.7 異投射させたバーチャルハンドの色を修飾すると痛みが増強／緩和する\*  
 青く染めたバーチャルハンドへ異投射したほうが（熱刺激による）痛みを感じにくくなる（文献 11 より引用）。

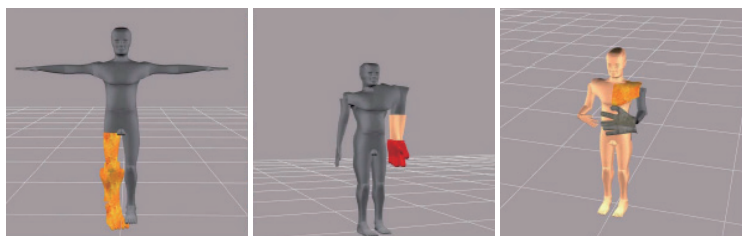


図 3.8 難治性疼痛症例が訴える身体イメージの変容\*  
 患肢が「灼けるように腫れている」という愁訴とともに、赤く・拡大した身体イメージの変容が生じることが多い（文献 12 より引用）。